

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年十一月度 入選句（投稿総数三千七十六句・小中学投句数二千五百十三句）

特選

くるくると身をよじらせてもみじちる 大垣市

河村 奈菜美(小四)

選者 高木 佐知子

赤や黄色に色づいた木々の葉を見ながら深まる秋を楽しんでいたかと思うと、やがて一枚また一枚と散っていく様子が浮かびます。「くるくると」という軽やかな表現が明るさを出しています。もみじが散るといふ俳句は多くありますが、「身をよじらせて」の中七がこの俳句のおもしろいところです。散るもみじの思いを読み手に想像させる広がりのある一句です。

いきなりの花火みつけておおはしやぎ 大垣市 ふくい ゆな(小四)

夏の風物詩の一つとも言える花火大会が中止になり少し寂しい夏の夜でしたが、サプライズの花火を見た喜びが「おおはしやぎ」の下五に詰まっています。花火が上がることがわかっているにもかかわらず、いきなり夜空に大きな丸い光が見えたのですから飛びはねたり歓声をあげたりしたのでしょう。笑顔あふれる一句です。

秋桜のおくに伊吹の山見える 大垣市 柴田 華子(小六)

空気が澄んだ秋の空にそびえる伊吹山は、雄大でいつも以上に大きく見えます。秋風にやさしく揺れるコスモスに心ひかれながらもその向こうに見える秋の伊吹山をしっかりとらえている作者の目がすばらしいです。コスモスのやさしさと伊吹山の大きさの対比もおもしろいです。風景を大きくとらえた一句と言えましょう。

秀逸

さつまいもかぶりついたら止まらない 大垣市 山岸 愛佳(小四)

おおそうじめんどくさいなふゆじたく 大垣市 安田 悠人(小三)

ようふくにくつつきむしがいつぱいだ 大垣市 ひさえ ここみ(小二)

きりがみできよりゆうつくるあきのよる 大垣市 新川 りゆうき(小二)

くしゃみする秋の風がもう来たか 大垣市 川瀬 凜珠(小六)

はらはらとかわいた風に乗るかれ葉 加茂郡川辺町 橋本 美桜(中三)

満天の星に見とれる秋の夜 不破郡垂井町 三島 歌純(中二)

サンタさんたまにはわたしがプレゼント 大垣市 小山 凜乃(小五)

どんぐりがころころがるいかないで 大垣市 可兒 羽純美(小四)

高とびでここまでとぶぞ秋の空 大垣市 長澤 優樹(小三)

入選

流れ星みたらすぐにながいがいごと 大垣市 佐々木 海知(小三)
 ころもがえせいふくだしてきなくちゃね 大垣市 えんどう あこと(小二)
 天高しのぼりぼうでもとどかない 大垣市 ふるさわ そうま(小二)
 どんぐりをぼけついっぱいひろったよ 大垣市 高木 怜音(小二)
 満月がくもにかくれててれている 大垣市 篠田 明璃(小四)
 音だけの打ち上げ花火外探す 大垣市 堤 友 希(小六)
 衣替え一足先の冬気分 大垣市 川瀬 心晴(小六)
 汗かいて皆で旗ふる鼓笛隊 大垣市 服部 晃大(小六)
 さつまいも二つにわってゆげがでる 大垣市 説田 実莉杏(小六)
 ずず虫の音に合わせて口ずさむ 大垣市 富岡 茜音(小六)

入選

僕の鼻さんまを当てるきゆう覚だ 加茂郡川辺町 脇本 亜柚夢(中三)
 十五夜の夜に父とバッテリー 加茂郡川辺町 佐藤 羽空(中二)
 落ち葉道自然が作る道しるべ 加茂郡川辺町 幸村 直輝(中二)
 かわいたらまつぼっくりがひらいたよ 大垣市 さわ ゆづき(小二)
 おとうととつなひきするよおいもほり 大垣市 古川 颯人(小三)
 白い息めがねがくもる登校中 大垣市 砂川 ゆな(小四)
 ポーズする前足広げたオオカマキリ 大垣市 青木 麗(小五)
 秋おわり穴にトカゲがもぐりこむ 大垣市 清水 悠雅(小六)
 登校時出している手が悴んだ 大垣市 笹田 来良(小六)
 赤もみじひらひら落ちてかみかざり 大垣市 桜井 琴な(小四)

選者吟

生命の根ひそと抱きしめ山眠る

佐知子